

針灸臨床の 新しいページを開く

李世珍先生の針がもたらすもの



李世珍の針——これは李世珍一家が5代にわたって練り上げてきた家伝針灸であり、いわば個性の強い針だ。しかし、けっして狭い一流派の針ではなく、むしろ極めて大きな普遍性を持ち、中医学の基本を最も見事に体現した本格的な針といえる。本針法は体系化されていて、至極わかりやすい。緻密な臨床の裏付けが大量に蓄積されていることが、この針灸の重みをなす。今やこの針は日本の代表的な中医針灸臨床の1つになろうとしている。

本針法の最大の特徴は、臨床効果の高さにある。長い時間をかけて少数穴に徹底した手技を送る。しかも、それは「痛くなく」、むしろ「パルスのように心地よい針だ」ともいう。運動器疾患だけでなく、内科疾患、精神科疾患など多疾患に威力を発揮し、活用場面がたいへん広い。この針法をマスターするだけで、相当の臨床問題がクリアできるはずだ。

この針法は、また日本の若い学徒が習得しやすいという大きなメリットをもっている。驚くほど短期間で習得できる。李世珍先生の講義

を2～3回受講しただけで、実績を上げた鍼灸師がたくさんいる。本ムックと添付のCDが発刊された今、初めての人も独習によって李世珍の針のすべてを習得することが可能となった。ぜひともこの針法に習熟して、あなたの針灸臨床の「^{おはこ}十八番」にしていきたい。

日本の中医学は、「理論はあるが、臨床がない」と長く揶揄されてきたが、いま、われわれはその評価を根底から覆す素晴らしい針を手に入れることができた。これで「患者が来てくれる針」という目標を実現することが可能となったのである。

創刊25年の『中医臨床』編集部が最大の自信をもってお勧めする。

- ① 極めて高い臨床効果。
- ② 内科疾患、精神科疾患など多疾患でも威力を発揮。
- ③ 短期間にマスターできる手技。
- ④ 教育と臨床がマッチした針。
- ⑤ 徹底した弁証論治の体系。
- ⑥ 「痛みが少なく」、むしろ「心地よい針」とも評される。
- ⑦ 日本の大病院での実践で効果が実証されている。
- ⑧ 入門しやすい針灸臨床の道。
- ⑨ 学びやすい学習環境が整う。——李世珍先生の2大書籍が翻訳されて独習環境ができている。日本で会得した先輩がおり、第5代李伝岐先生はいつでも来日して教えてくれる。

本ムックは、2002年8月に東京・大阪で開催された李世珍先生の来日講演会の講演・レポート・追試報告と、『中医臨床』で掲載された関連記事、および今回、本ムックのために特別に行われたインタビューや座談会などの記事を新たに加えて、「李世珍先生の針」の一大総合特集とした。